

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足

②1～4号機タンク貯蔵量

・淡水化装置による処理により、RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり  
・蒸発濃縮装置は全台停止中

③5、6号機滞留水貯蔵量

・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④廃棄物発生量

・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約1,060 m <sup>3</sup>	-※7
2号機	約1,840 m <sup>3</sup>	-※7
3号機	約1,960 m <sup>3</sup>	-※7
4号機	約10 m <sup>3</sup>	-※7
合計	約4,870 m <sup>3</sup>	

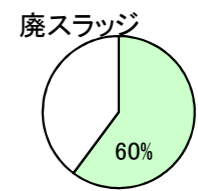
(合計)+30[m<sup>3</sup>/4週] (合計)-30[m<sup>3</sup>/週]

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約7,580 m <sup>3</sup>	T.P.421
高温焼却炉建屋	約2,760 m <sup>3</sup>	T.P.37
合計	約10,340 m <sup>3</sup>	

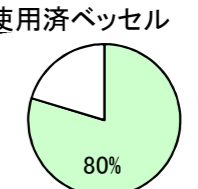
(合計)+1990[m<sup>3</sup>/4週] (合計)+2130[m<sup>3</sup>/週]

施設	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	790 m <sup>3</sup>	1,200 m <sup>3</sup>
SPT(B)	712 m <sup>3</sup>	3,100 m <sup>3</sup>
合計	-988[m <sup>3</sup> /4週]	(合計)+125[m <sup>3</sup> /週]

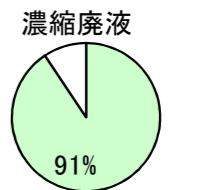
④廃棄物発生量



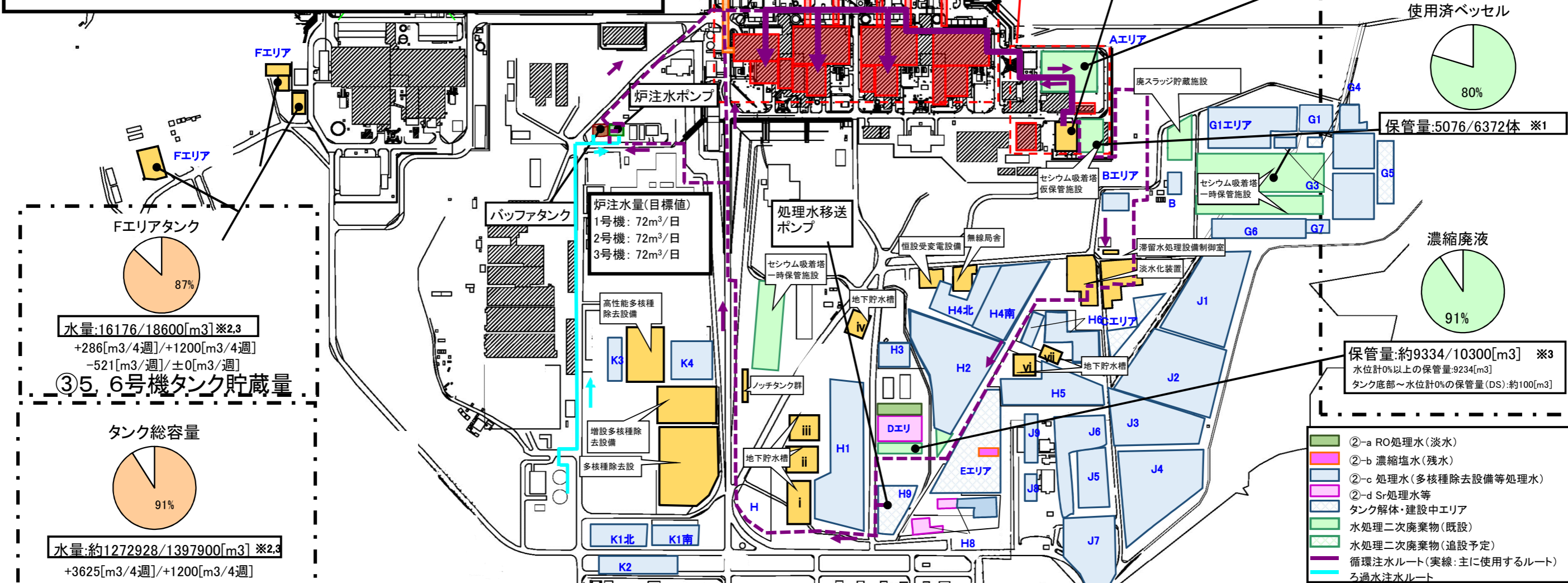
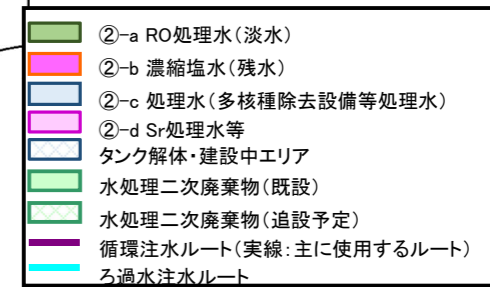
保管量:421/700[m<sup>3</sup>] ※3



保管量:5076/6372体 ※1

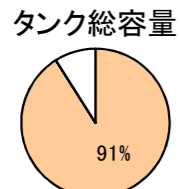
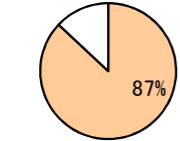


保管量:約9334/10300[m<sup>3</sup>] ※3  
水位計0%以上の保管量:9234[m<sup>3</sup>]  
タンク底部～水位計0%の保管量(DS):約100[m<sup>3</sup>]



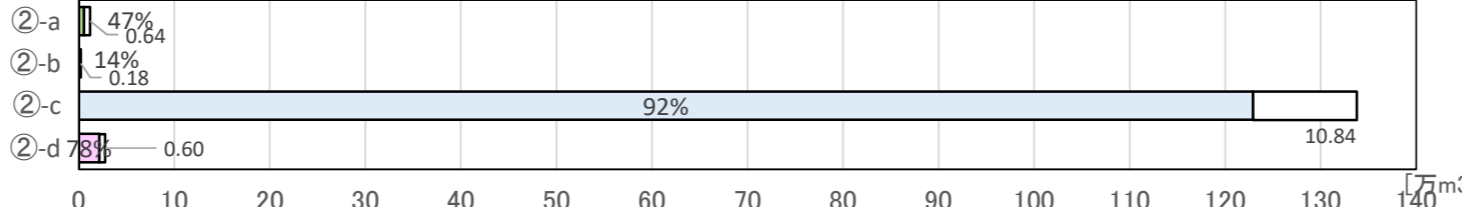
③5、6号機タンク貯蔵量

水量:16176/18600[m<sup>3</sup>] ※2,3  
+286[m<sup>3</sup>/4週]/+1200[m<sup>3</sup>/4週]  
-521[m<sup>3</sup>/週]/±0[m<sup>3</sup>/週]



水量:約1272928/1397900[m<sup>3</sup>] ※2,3  
+3625[m<sup>3</sup>/4週]/+1200[m<sup>3</sup>/4週]  
+42[m<sup>3</sup>/週]/±0[m<sup>3</sup>/週]

タンク貯蔵量合計(②+③)

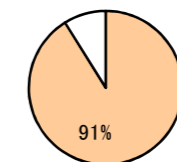


タンク貯蔵量	水量	貯蔵容量	水位計0%以上の水量	タンク底部～水位計0%の水量(DS)
②-a RO処理水(淡水)	約5616/12000[m <sup>3</sup> ] ※2,3	約300/2100[m <sup>3</sup> ] ※2,3	約5516[m <sup>3</sup> ]	約100[m <sup>3</sup> ]
②-b 濃縮塩水(残水)	約300/2100[m <sup>3</sup> ] ※2,3	約300/2100[m <sup>3</sup> ] ※2,3	約200[m <sup>3</sup> ]	約100[m <sup>3</sup> ]
②-c 処理水(多核種除去設備等処理水)	約1229206/1337600[m <sup>3</sup> ] ※2,3,4,6	約1229206/1337600[m <sup>3</sup> ] ※2,3,4,6	約1227006[m <sup>3</sup> ]	約2200[m <sup>3</sup> ]
②-d Sr処理水等	約21638/27600[m <sup>3</sup> ] ※2,3	約21638/27600[m <sup>3</sup> ] ※2,3	約21438[m <sup>3</sup> ]	約200[m <sup>3</sup> ]

-545[m<sup>3</sup>/4週]/±0[m<sup>3</sup>/4週] ±0[m<sup>3</sup>/4週]/±0[m<sup>3</sup>/4週] +3884[m<sup>3</sup>/4週]/+2000[m<sup>3</sup>/4週] ±0[m<sup>3</sup>/4週]/-2000[m<sup>3</sup>/4週]  
 -501[m<sup>3</sup>/週]/±0[m<sup>3</sup>/週] ±0[m<sup>3</sup>/週]/±0[m<sup>3</sup>/週] +971[m<sup>3</sup>/週]/±0[m<sup>3</sup>/週] +93[m<sup>3</sup>/週]/±0[m<sup>3</sup>/週]

②1～4号機タンク貯蔵量

1～4号機タンク総容量

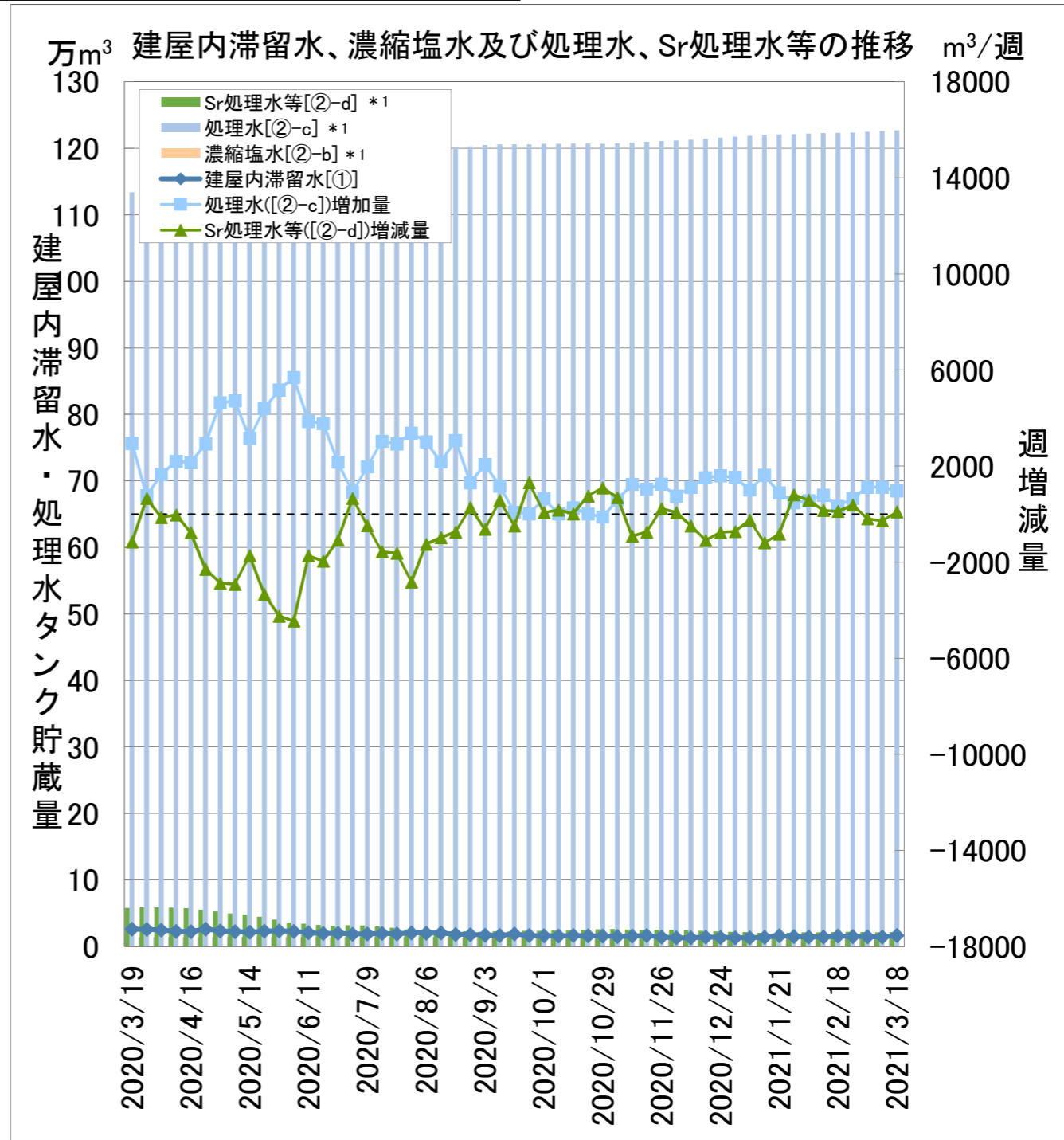
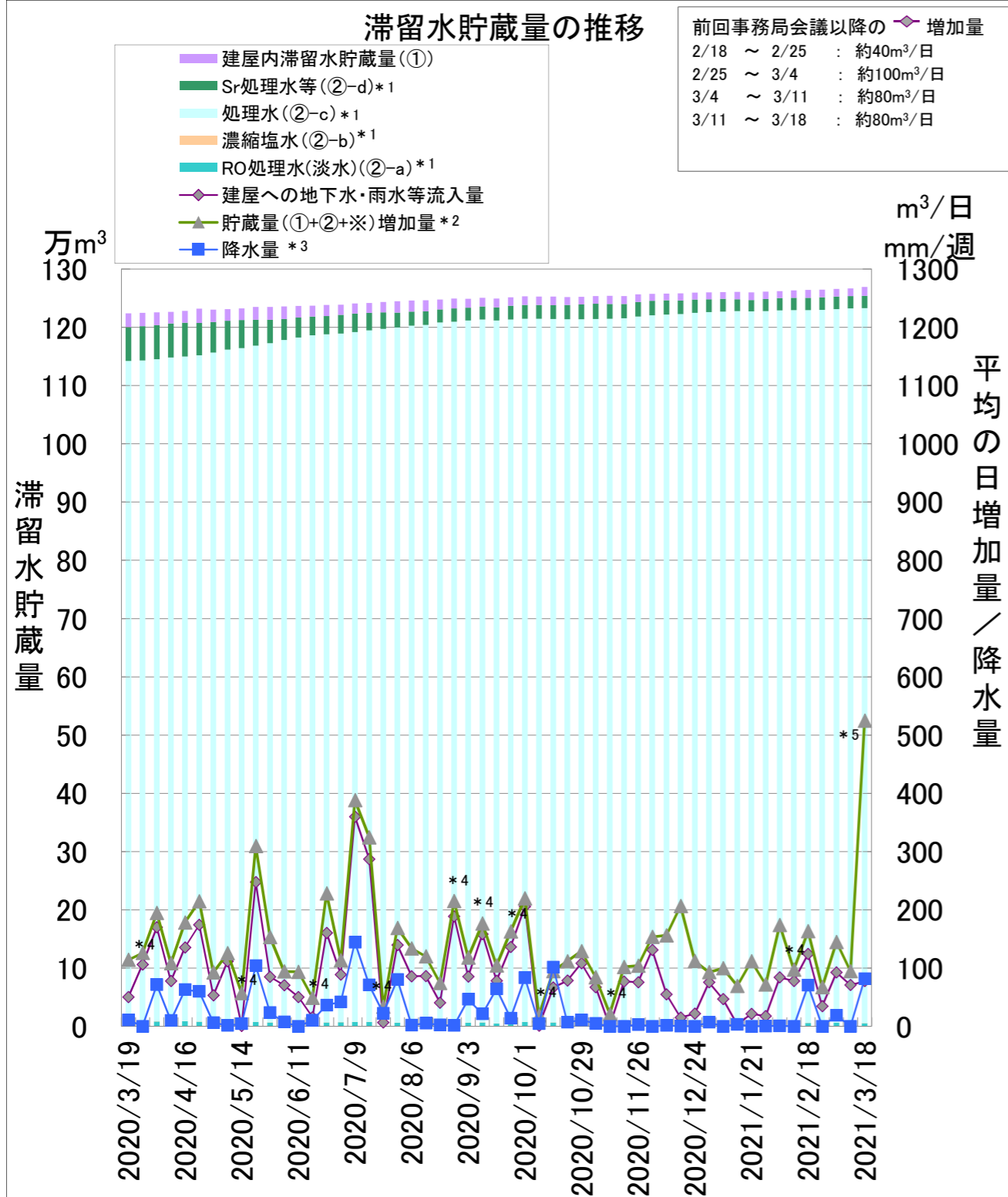


水量:約1273464[m<sup>3</sup>]  
+4371[m<sup>3</sup>/4週] ※5  
+2788[m<sup>3</sup>/週]

建屋内貯蔵量  
+  
1～4号機タンク貯蔵量  
(①+②)

※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセルを含む  
 ※2 装置稼働中につき水位が安定しないため参考扱い  
 ※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記。端数処理上、水量の総和と異なる場合がある)  
 ※4 多核種除去設備等(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵  
 ※5 ウェルポイント・地下水ドレン(約60m<sup>3</sup>/週)、共用プールから高温焼却炉建屋への移送量(約30m<sup>3</sup>/週)、その他移送量(約3,010m<sup>3</sup>/週)の合計3,100m<sup>3</sup>/週を含む  
 (端数処理上、各移送量の総和と異なる場合がある)  
 ※6 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む  
 ※7 1～4号機T/Bは水抜きが完了しているため、水位を「-」表記  
 ※8 フランジ型タンクに貯蔵するSr処理水の処理完了(2018/11/17) フランジ型タンクに貯蔵する多核種除去設備等処理済水の移送完了(2019/3/27)。引き続き、残水処理を進める観点から、以後、フランジ型タンクのタンク底部～水位計0%の水量(DS)は水位計0%以上の水量に含める

# 滞留水の貯蔵状況の推移



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1~4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))  
②: 1~4号機タンク貯蔵量(〔②-a〕RO処理水(淡水))+〔②-b〕濃縮塩水+〔②-c〕処理水+〔②-d〕Sr処理水等

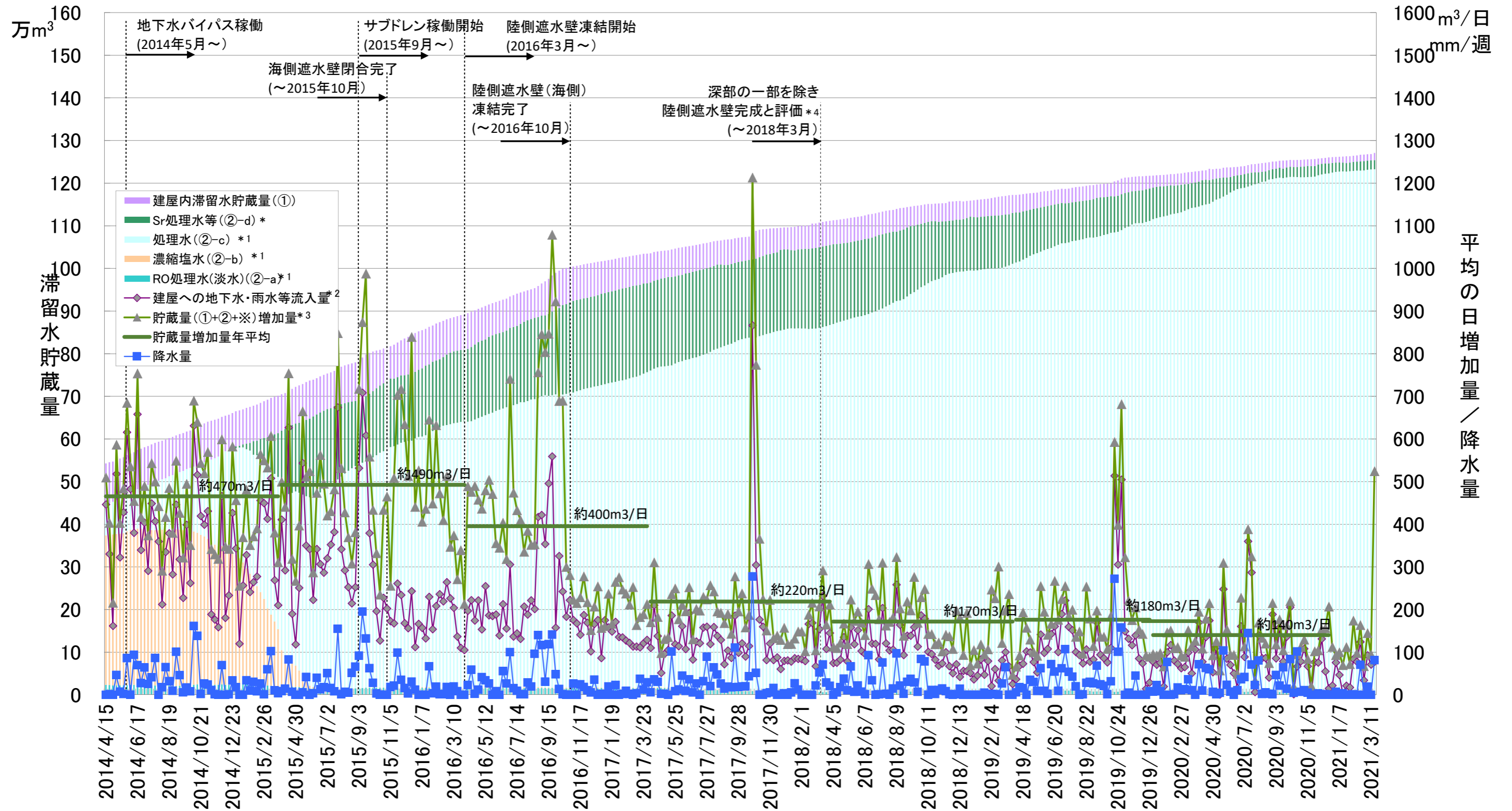
\*1: 水位計0%以上の水量  
\*2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)  
〔(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)〕  
\*3: 2018/12/13より浪江地点の降水量から1F構内の降水量に変更。  
\*4: 建屋内滞留水の水位低下の影響で、評価上、建屋への地下水・雨水等流入量が一時的に変動したものと推定。(2020/3/18,5/7~14,6/11~18,7/16~23,8/20~27,9/3~10,9/17~24,10/1~8,11/12~19,2021/2/4~2/11)  
\*5: 2021/3/18廃炉作業に伴う建屋への移送により貯蔵量が増加。  
(移送量の主な内訳は①タンク内の滞留水(物揚場排水路から移送した水)をプロセス主建屋へ移送:約390m<sup>3</sup>/日、②タンク内の滞留水(物揚場排水路から移送した水)を高温焼却炉建屋へ移送:約10m<sup>3</sup>/日、③3号増設FSTRから3号廃棄物処理建屋へ移送:10m<sup>3</sup>/日、他)

## 多核種除去設備等の稼働状況

設備	期間処理水 <sup>注1,4)</sup>		定格処理量
	[m <sup>3</sup> /週] <sup>注2)</sup>	[m <sup>3</sup> /4週]	
既設多核種除去設備	134	134	750以上
増設多核種除去設備	853	3,880	750以上
高性能多核種除去設備	0	0	500以上
高性能 検証試験装置	0	0	50
合計	987	4,014	

注1) 処理量は全て出口積算流量計から算出しており、薬液注入量を含む。  
注2) 処理量の内訳はRO濃縮塩水処理量0m<sup>3</sup>、Sr処理水処理量932m<sup>3</sup>、処理水処理量0m<sup>3</sup>、薬液注入量他55m<sup>3</sup>注3)。  
注3) 処理水を用いて粉体を溶かし生成している薬液量(23m<sup>3</sup>)を含む。  
注4) 処理水増加量を基にした算出方法から、設備の出口積算流量計を基にした算出方法に、2020年11月26日より見直し。

# 滞留水の貯蔵状況の推移(長期グラフ)



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1~4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))

②: 1~4号機タンク貯蔵量

(〔②-aRO処理水(淡水)〕+〔②-b濃縮塩水〕+〔②-c処理水〕+〔②-dSr処理水等〕)

※: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

\*1: 水位計0%以上の水量

\*2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)  
〔(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)〕

\*3: 2018/12/6まで浪江地点の降水量を使用していたが、2018/12/13より1F構内の降水量に変更

\*4: 深部未凍結箇所3箇所については、2018年9月までに凍結完了